



KPMG トレード&カスタムズ

USMCAの適用に向けて

2020年7月



米国・メキシコ・カナダ協定（USMCA） 2020年7月1日発効 - 発効までのタイムライン



2019年6月19日

メキシコ上院、T-MEC
(USMCA) を初承認

2020年3月13日

カナダ政府がCUSMA
(USMCA) を承認

2020年1月29日

トランプ大統領が米国議会で
承認されたUSMCA実施法案
に署名

2020年7月1日
USMCAの発効日

USMCAの原産地規則

NAFTAからの変更点	インパクト
HSコードでグループ化された品目ごとの原産地規則	<ul style="list-style-type: none">品目によっては原産化が難しくなるもの、簡単になるものが出てくる
ほとんどの製品の原産判定は、USMCAの品目別規則のみでできる	<ul style="list-style-type: none">USMCAでは、米国連邦規則集（19CFR）102条（原産地規則）を参照する必要はなく、協定に記載される品目別規則のみによって原産品を判定することができる
自動車・化学・繊維産業分野について大きな変更あり	<ul style="list-style-type: none">これらの産業の製品の現地生産および材料の現地調達を推進する方向での変更
原産資格を満たすための戦略	<p><u>USMCAでの変更点</u></p> <ul style="list-style-type: none">デミニマスー非原産材料割合が10%以下であれば、関税分類変更基準と付加価値基準のいずれも、原産品とみなされる <p><u>変更していない点</u></p> <ul style="list-style-type: none">中間材料・累積の一般的なルール

USMCAの原産地証明書

NAFTAから大きな変更がなかった点

NAFTA and USMCA

輸入者はUSMCAの適用時に有効な原産地証明書を所持している必要がある。また、最大12ヶ月間の包括的な期間利用することが可能

NAFTAから変化した点

NAFTA

正式なNAFTAの原産地証明書の書式が必要

DEPARTMENT OF HOMELAND SECURITY
U.S. Customs and Border Protection
CMB No. 1551-0058
Exp. 04-30-2025

**NORTH AMERICAN FREE TRADE AGREEMENT
CERTIFICATE OF ORIGIN**
19 CFR 155.11, 155.22

1. EXPORTER NAME, ADDRESS AND EMAIL		2. BLANKET PERIOD			
TAX IDENTIFICATION NUMBER		FROM (mm/yyyy)	TO (mm/yyyy)		
3. PRODUCER NAME, ADDRESS AND EMAIL		4. IMPORTER NAME, ADDRESS AND EMAIL			
TAX IDENTIFICATION NUMBER		TAX IDENTIFICATION NUMBER			
5. DESCRIPTION OF GOODS(S)	6. HS CEEB CLASSIFICATION NUMBER	7. PREFERENCE CRITERION	8. PRODUCER	9. NET COST	10. COUNTRY OF ORIGIN

I CERTIFY THAT:
• THE INFORMATION ON THIS DOCUMENT IS TRUE AND ACCURATE AND I ASSUME THE RESPONSIBILITY FOR PROVIDING SUCH REPRESENTATIONS. I UNDERSTAND THAT I AM LIABLE FOR ANY FALSE STATEMENTS OR MATERIAL OMISSIONS MADE ON OR IN CONNECTION WITH THIS DOCUMENT.
• I AGREE TO MAINTAIN AND PRESENT UPON REQUEST, DOCUMENTATION NECESSARY TO SUPPORT THIS CERTIFICATE, AND TO INFORM, IN WRITING, ALL PERSONS TO WHOM THE CERTIFICATE WAS GIVEN OF ANY CHANGES THAT COULD AFFECT THE ACCURACY OR VALIDITY OF THIS CERTIFICATE.
• THE GOODS ORIGINATED IN THE TERRITORY OF ONE OR MORE OF THE PARTIES, AND COMPLY WITH THE ORIGIN REQUIREMENTS SPECIFIED FOR THOSE GOODS IN THE NORTH AMERICAN FREE TRADE AGREEMENT AND UNLESS SPECIFICALLY EXEMPTED IN ARTICLE 21.1 (OR ANNEX 45), THERE HAS BEEN NO FURTHER PRODUCTION OR ANY OTHER OPERATION OUTSIDE THE TERRITORIES OF THE PARTIES; AND
• THIS CERTIFICATE CONSISTS OF _____ PAGES, INCLUDING ALL ATTACHMENTS.

10. AUTHORIZED SIGNATURE: _____ 11. COMPANY: _____
11. 11a. NAME: _____ 11b. TITLE: _____
11c. DATE (mm/yyyy) 11d. TELEPHONE NUMBERS: _____ 11e. EMAIL: _____

CSP Form 434 (1/15) Page 1 of 2

USMCA

正式な原産地証明書の書式は不要

原産地証明書は、インボイスのような他の取引書類上に記載することができる。ただし、記載項目は基本的にNAFTAの原産地証明書と同じ。

また、原産地証明書とその根拠書類は、輸入した日から5年間保存しなければならない。

USMCAの検認

NAFTAからの変更点	インパクト
輸入国税関当局による輸入者への検認が可能	<ul style="list-style-type: none">原産資格に関する知識が不足しているような輸入者に対して、税関からの照会が増加する
輸入者が検認で十分な情報を提供しない場合、CBPは輸出者または生産者に問い合わせる	<ul style="list-style-type: none">検認を行う場合、米国税関・国境取締局（CBP）は、輸出者、生産者、輸入者から文書を含む情報を直接受け入れる
検認で原産性を否認された場合のマイナス影響	<ul style="list-style-type: none">CBPは包括的な原産地証明書の対象となる同一の商品のすべての輸入に対する特惠税率の適用を拒否し、輸入者は通常の関税率で関税額を納付する必要がある
CBPが複数の検認で同じパターンの原産性否認事案を発見した場合	<ul style="list-style-type: none">CBPは、原産地規則への準拠性が確立されるまで、一定の産品について特惠税率の適用を拒否することができる

プランニングの考察

なぜ今、行動を起こすべきか？

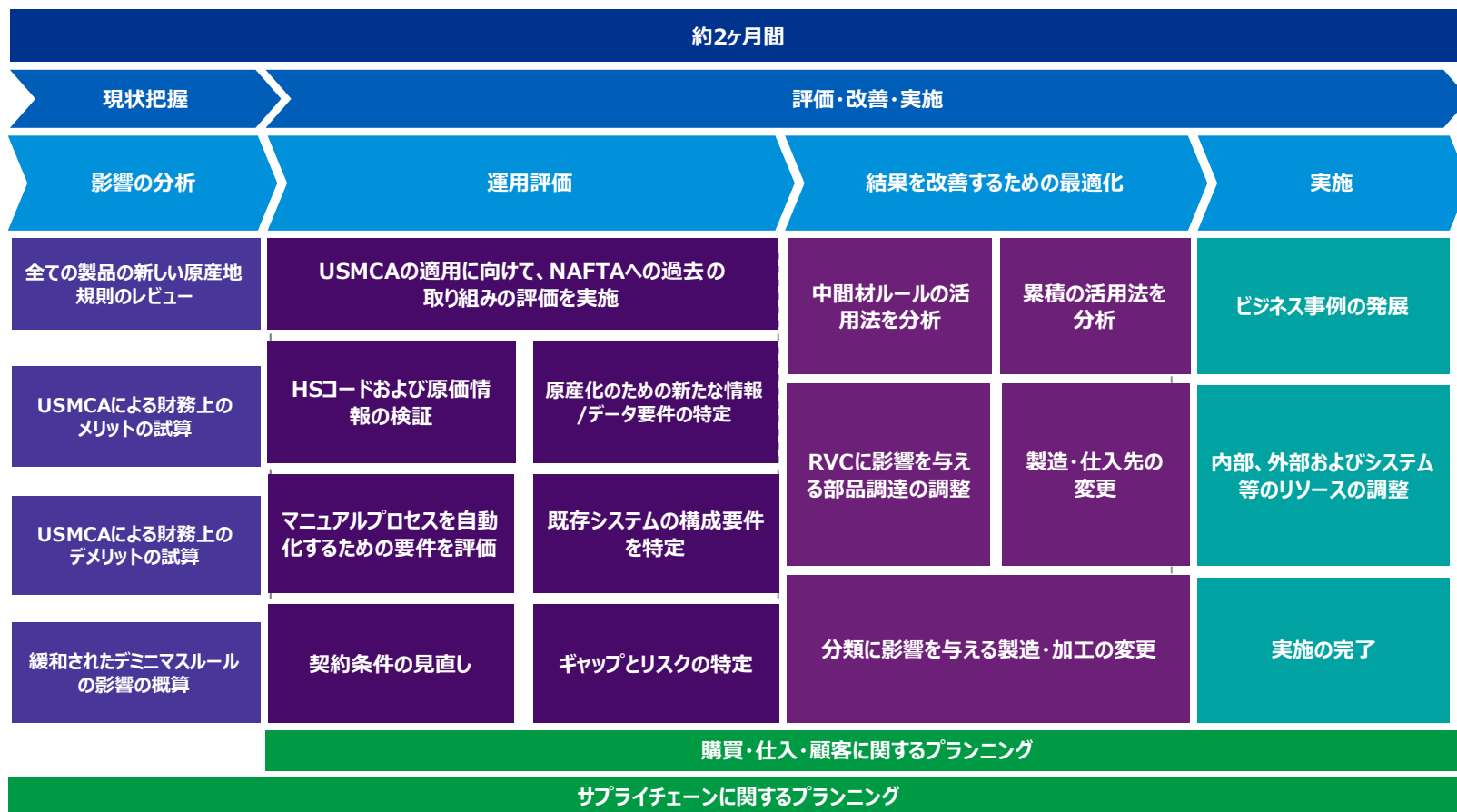
- NAFTAから原産地規則が変更されたことにより、USMCAに基づいた製品の原産資格の再確認が必要
- サプライチェーンや調達戦略、製造プロセスを変更することで、原産判定の結果を左右する可能性がある
- 早めに対応をすることで、関税削減の機会が増える可能性がある
- 新しいUSMCAルールに対応するためにシステムの変更が必要な場合がある
- 方針、手順、コンプライアンスマニュアルの制定・更新が必要な場合がある

Why KPMG?

- 様々な業界での自由貿易協定の適用サポートを経験している貿易・関税の専門家チームによるサポートが可能
- 貿易・関税の専門家チームが開発したNAFTAからUSMCAへの移行に関するフレームワークを通して、幅広い知識を提供することが可能
- グローバルな貿易テクノロジーに関する知識を提供し、貿易システム構成要件やNAFTAからの移行に関する支援が可能
- 米国、メキシコ、カナダの貿易・関税専門家を含むKPMGインターナショナルメンバーファームのグローバルネットワークを利用することが可能

USMCAの適用に向けたKPMGのアプローチ

KPMGはUSMCAの原産地規則および規定への準拠性を確保するために下記 4 段階のアプローチを提案します





KPMG税理士法人
パートナー
梅辻 雅春
T: 03-6229-8070
E: masaharu.umetsuji@jp.kpmg.com

KPMG税理士法人
パートナー
神津 隆幸
T: 03-6229-8205
E: takayuki.kozu@jp.kpmg.com

KPMG税理士法人
シニア マネージャー
古賀 弘樹
T: 03-6229-8332
E: hiroki.koga@jp.kpmg.com

KPMG税理士法人
マネージャー
Christos Zaharatos
T: 03-6229-8927
E: christos.zaharatos@jp.kpmg.com

ここに記載されている情報はあくまで一般的なものであり、特定の個人や組織が置かれている状況に対応するものではありません。私たちは、的確な情報をタイムリーに提供できるよう努めておりますが、情報を受け取られた時点及びそれ以降においての正確さは保証の限りではありません。何らかの行動を取られる場合は、ここにある情報のみを根拠とせず、プロフェッショナルが特定の状況を綿密に調査した上で提案する適切なアドバイスをもとにご判断ください。

© 2020 KPMG Tax Corporation, a tax corporation incorporated under the Japanese CPTA Law and a member firm of the KPMG network of independent member firms affiliated with KPMG International Cooperative (“KPMG International”), a Swiss entity. All rights reserved.

The KPMG name and logo are registered trademarks or trademarks of KPMG International.